

松本講演会「がんと共にいい覚悟で生きる」
佐久ひとときカフェ スタッフ 小室 清子

8月11日午前10時。「松本カフェ」の発足1周年を記念して樋野先生を招き、「がんと共にいい覚悟で生きる～がん哲学外来の話～」が開催されました。

松本市在住の斎藤智恵美さんがご自身の乳がんの体験から治療のありかた、医師・患者関係、罹患後の健康への不安等で悩まれ、新聞記事を読んで軽井沢「あうんの家」を頼って来られたのがきっかけで、そのあと間もなく「松本カフェ」を設立されました。

毎回同じ会場の確保が困難だったり、カフェの開催の宣伝の手続きをしたり、お茶とお菓子の用意、後片付け等々をいつも笑顔でこなしてきた斎藤さん。ですが、彼女を支えたいと思って心優しい方々が(ひとりでに)大勢集まって来たのはやはり人徳でしょうか。既往の患者さん始め、映画記録を作る方、セミプロの落語家、「あうんの家」「佐久カフェ」の面々、etc…。

松本と軽井沢、佐久市…。車で二時間余も掛かる山道です。斎藤さんは寒い日も天気の良い時も「がん哲学の活動を深く知りたい」、その一心で通って来られたと聞いています。改装工事で甦った松本市勤労者福祉センターでの講演会は大成功！。満杯でした。

「松本カフェ」で学んだこと
シャチホコ記念カフェ 主宰 彦田 かな子

「フォー!!!フォー!」の掛け声とともに、心弾む軽快な曲がスタートした。バブル時代と呼ばれていた頃に流行った『ダンシング・ヒーロー』。小諸でダンス教室をされている土屋芳美さんのリードで会場は大盛り上がり。小学生のお子さんから89歳の洋裁上手な女性まで、全員が両手を上げてリズムに体を預けている。後方の席にいた私は、その様子を見て笑顔になり、自然に「フォー!」と声を出しながら胸が高鳴り感動で心がいっぱいになり油断すると涙が出そうであった。

樋野先生の穏やかで、ユーモアたっぷりのお話の後、会場はほっこりした雰囲気になっていました。ここで『ダンシング・ヒーロー』。考えただけでドキドキする。しかし、土屋さんは今までの空気感を弾き飛ばす勢いで曲をかけた。その勢いに会場の参加者が一人も漏れることなく引き込まれたのは、なぜか…。

「小さなことに愛を込める」ことの大切さについて、樋野先生は講演の中でお話しされていた。なるほど、こういうことか。愛を込めて行動したことは、みんなに伝わり愛が広がるのだ。「特急しなの」に揺られ、幸せな気分で名古屋の自宅へ帰った。



◇会場は松本市勤労者福祉センター。樋野先生の笑顔をもとにストラップを作った参加者の皆さんにプレゼントして下さったのは彦田さんの娘さんです。満席の会場には優しさと笑い声とが満ち溢れていました。



◇「ダンシングヒーロー」を踊ってすぐにカフェのスタート。5グループに分かれてあちこちで談笑の輪が広がる。樋野先生の見守る中、身を乗り出すようにして話される方々。続きは「松本みずたまカフェ」で。



◇カフェのファシリテーターとして駆け付けて下さったのは、彦田かな子さん(名古屋)、土屋千雅子さん(浅草)、福原俊二郎さん(千葉県)、市村雅昭さん(万座・日進館)、片桐孝子さん(佐久市)でした。感謝!!!